

# 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	産業建設常任委員会
参加委員 ◎委員長、○副委員長	◎渡部 一樹 ○田中 雅人 十二村 秀孝 小林 時夫 齋藤 仁一 佐藤 忠孝 山口 和男

## 1 本市の課題と視察の目的

本市小田付地区は、近世には酒や味噌、醤油などの醸造等が盛んに行われ、会津北方の交易の中心地として発展してきた。同地区では、住民が中心となり、町並みを保存し、再活用しながら同地区を活性化させることを目的として、平成 15 年に「会津北方小田付郷町衆会」を結成し、平成 25 年に同地区の行政区長と町衆会により伝統的建造物群保存地区選定の要望書が出され、昨年（平成 30 年）8 月に重要伝統的建造物群保存地区の選定に至ったところである。

広島県竹原市では、昭和 57 年に同市竹原地区が重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けている。同市保存地区内における選定までの経緯をはじめ、修景等や催事などの取組について視察研修をすることで、本市における今後の事業展開の参考にする。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	広島県竹原市
令和元年 7 月 10 日（水） 午後 2 時 50 分 ～午後 4 時 15 分	担当部局	竹原市教育委員会教育振興課（文化財保護係）
視察項目	歴史的町並みを活かしたまちづくりについて	
報告内容	<u>1 重要伝統的建造物群保存地区の概要と選定までの経緯について</u> (1) 重要伝統的建造物群保存地区の概要 竹原市竹原地区は、昭和 57 年 12 月 16 日に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。面積は 5 ヘクタールで、地区内の保存物件は伝統的建造物として市が所有者の同意を得て特定しており、現在は母屋や土蔵等 146 件、石段などの工作物 38 件を特定している。 (2) 重要伝統的建造物群保存地区選定までの経緯 重要伝統的建造物群保存地区への選定までのあゆみについては、竹原地区の景観の価値が高いという有識者等の評価を受け、昭和 50 年代に地元住民による住民運動が盛んに行われ、行政も一緒に取り組み、伝統的建造物群調査を実施した後、昭和 56 年に保存条例と保存計画を策定し、翌年に国の選定を受けた。	

## 2 重要伝統的建造物群保存地区における各種施策について

### (1) 保存地区内における住民等への支援

保存地区内の建物の大部分は民間所有施設であるため、管理、修理等に対して補助をすることで建物等の保存を図っており、(補助の対象等については下表のとおり。)重要伝統的建造物群保存地区選定から昨年度までで150件の修理修景事業を実施している。

#### 【竹原市伝統的建造物群保存地区保存助成金交付要綱】

補助対象		補助率等
管理	伝統的建造物等の鳥虫害防除工事、自火報設備等の設置等	費用の4/5 (上限100万円)
修理	伝統的建造物の外観を維持するための現状維持又は復元修理等	費用の4/5 (上限600万円)
復旧	樹木・石垣・石段等の復元	費用の4/5 (上限600万円)
修景	伝統的建造物以外の建築物等を歴史的な町並みと調和する概観へ変更する行為	費用の4/5 (上限600万円)

#### 【竹原市伝統的建造物群保存地区保存助成金交付要綱】

補助対象		補助率等
原材料支給	簡単な修理を対象に修理に必要な材料費を支給 (瓦・壁・格子・樋等)	上限6万円

### (2) 保存地区内における事業の推進体制

地区内の推進体制として「たけはら町並み保存会」が組織され、次の取組を進めている。

- ア 家屋の軒先に一輪挿しを飾り、地区内への来訪者を歓迎する取組
- イ 伝統行事や各種イベント(講演会やワークショップ)の協力と参加
- ウ 防災訓練(火災が中心)の実施と保存会普及のために消火器の無料配付や火災報知器設置の助成
- エ 公開施設の維持管理の取組(例 庭園の除草など)
- オ 空き家調査と長期間留守となる方の連絡先調査

また、保存地区内の住民と地元企業の協力による無電柱化の実施(行政による費用負担なし。)や、季節に応じた各種イベントの開催といった活動にも取り組んでいる。

## 3 重要伝統的建造物群保存地区における施策の実績と課題について

各種事業の実施やマスコミ等で取り上げられたこともあり、観光客数及び観光消費額が増加している。

一方で、保存地区選定から40年近くが経過していることもあり、選定時の所有者から代替わりが急速に進んでいる。地区内の高齢化率は本年4月1日時点で54%ということに加えて、最近では空き家の増加、放置、劣化が懸念されている。

考 察  
(まとめ)

昭和 57 年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された竹原市竹原地区はこれまで 150 件の修理修景事業を実施している。また、マスコミ効果などにより観光客数の増加など実績を上げてきた。一方で、地区内の高齢化率は 54%に上っている。

本市小田付地区の取組においても、建物等を保存活用しながら持続可能な地域づくりに取り組んでいくことがいかに重要であるかを考えさせられる視察であった。

